

2026年3月期 第2四半期(中間期) 決算説明資料



株式会社オートバックスセブン
2025年11月4日

2026年3月期 上期業績および通期業績予想

全体概況	P. 4
セグメント別業績	P. 5
オートバックス事業	P. 6
コンシューマ事業	P. 9
ホールセール事業	P. 10
拡張事業	P. 11
業績予想	P. 12

中期経営計画の実現に向けた取り組み状況について

長期ビジョンと進化の方向性	P. 19
2024 中期経営計画の実現に向けた取り組み	P. 21
最後に	P. 27

参考資料	P. 28
------	-------

2026年3月期 上期業績 および通期業績予想

管理管掌
平賀 則孝

オートバックス事業は、販促施策が奏功しタイヤの販売が好調に推移
コンシューマ事業は、新規子会社の業績が寄与し、連結全体では増収増益

(単位:億円)	2026年3月期 上期				2025年3月期 上期
	計画	実績	計画比	前期比	実績
連結売上高	1,262	1,288	+2.1%	+16.8%	1,102
売上総利益	447	462	+3.3%	+19.8%	386
売上総利益率	35.5%	35.9%			35.0%
販管費	417	411	▲1.5%	+14.1%	360
営業利益	30	50	+69.5%	+102.5%	25
営業利益率	2.4%	3.9%			2.3%
経常利益	30	54	+82.7%	+102.6%	27
親会社株主に帰属する 中間純利益	17	35	+105.9%	+113.6%	16

※表示単位未満は切り捨て ※対売上比・前期比は円単位で計算

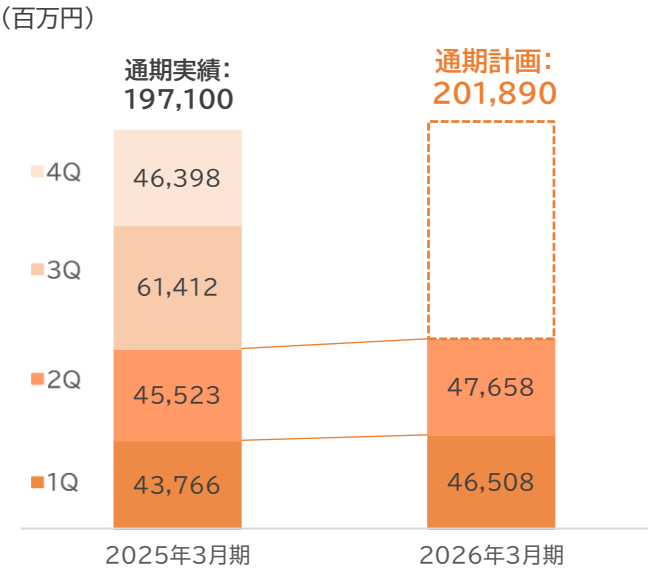
		2025年3月期 上期	2026年3月期 上期	前期比	総括
(単位:百万円)					
オートバックス事業	総売上高	89,290	94,166	+5.5%	増収増益。 タイヤのラインアップ拡充や車両メンテナンス 需要により、国内小売が好調。 前期FCパッケージ変更による影響の解消で売 上総利益が増加。
	売上総利益	32,083	35,065	+9.3%	
	販管費	24,203	26,046	+7.6%	
	営業利益	7,880	9,019	+14.5%	
コンシューマ事業	総売上高	10,223	24,528	+139.9%	増収・黒字転換。 前期に子会社化したホンダディーラーやビー ライン、オトロンが業績に大きく寄与。 AudiとBYDの正規ディーラーやオンラインス トア等の既存事業も伸長。
	売上総利益	2,594	7,105	+173.9%	
	販管費	3,427	6,996	+104.1%	
	営業利益	▲ 833	108	—	
ホールセール事業	総売上高	16,070	15,849	▲1.4%	減収・黒字転換。 中国からのタイヤ卸が拡大も、日本からの卸売 先の減少により輸出取引が縮小。 卸売子会社の吸収分割に伴う人員最適化によ り利益改善。
	売上総利益	3,167	2,903	▲8.3%	
	販管費	3,274	2,666	▲18.6%	
	営業利益	▲106	237	—	
拡張事業	総売上高	4,464	5,263	+17.9%	増収増益。 新規出店などにより不動産収入が堅調。
	売上総利益	761	1,180	+54.9%	
	販管費	456	588	+28.8%	
	営業利益	304	591	+94.0%	
コーポレート(※1)		営業利益	▲ 4,734	▲ 4,873	—

※表示単位未満は切り捨て ※前期比は円単位で計算
(※1) 「コーポレート」は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に一般管理費です

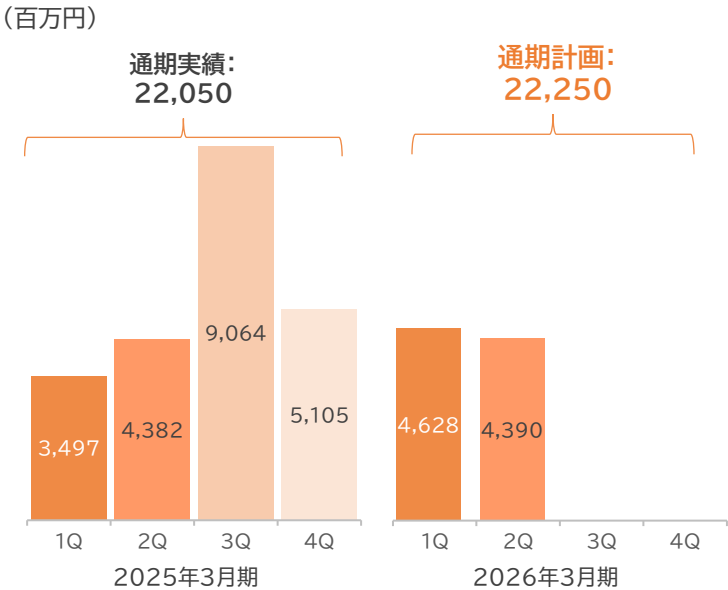
(百万円)	2025年3月期上期	2026年3月期上期	前年比
総売上高	89,290	94,166	+5.5%
小売	43,246	46,295	+7.1%
国内	38,089	41,383	+8.6%
海外	5,156	4,912	▲4.7%
卸売※	43,676	44,696	+2.3%
セグメント間取引	2,367	3,173	+34.1%
営業利益	7,880	9,019	+14.5%

※国内卸売売上およびロイヤリティを含む

■ 総売上高



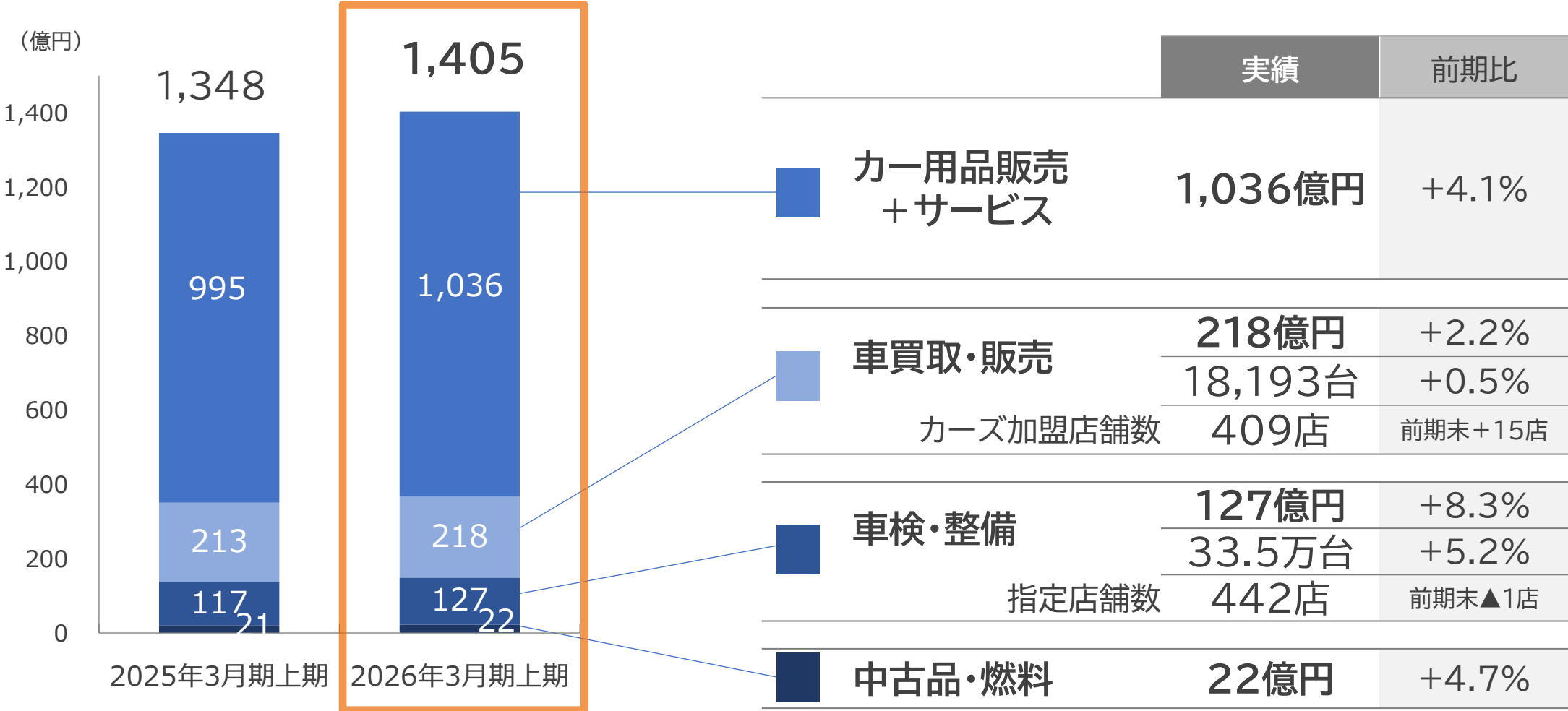
■ 営業利益



増収増益
タイヤのラインアップ拡充やメンテナンス需要により国内小売が好調。
前期FCパッケージ変更による影響の解消で売上総利益が向上。

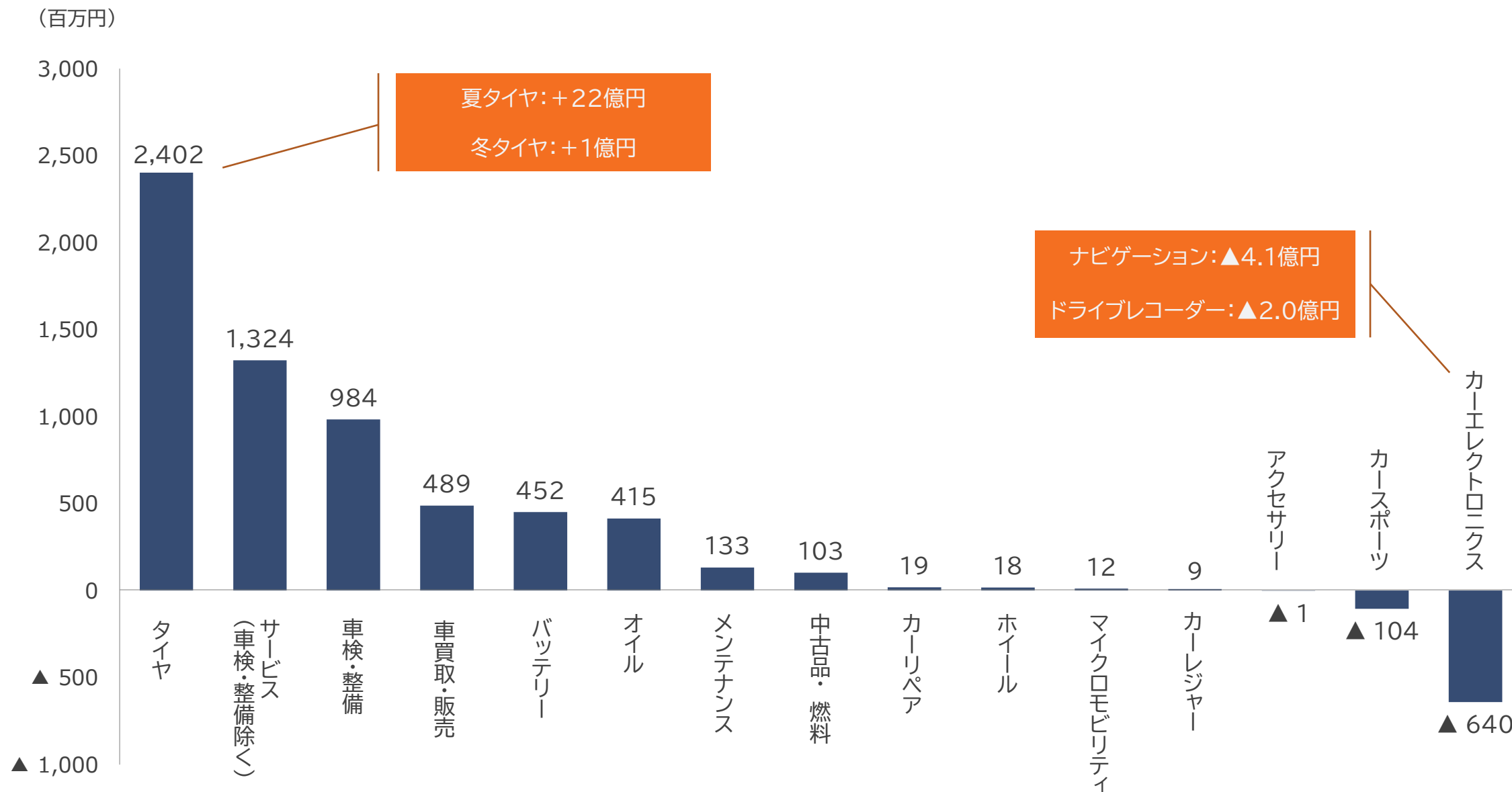
- 国内オートバックス
 - ・ 専売タイヤや高付加価値タイヤのラインアップ拡充により、タイヤが好調
 - ・ 車両メンテナンス需要により、オイル・バッテリーおよび関連サービス工賃が伸長
 - ・ 小売が好調で、ロイヤリティ収入が増加
- 海外小売
 - <フランス>
商品のラインアップを拡充するも、政治不安や景気低迷の影響で売上が減少
 - <シンガポール>
既存車両のメンテナンス需要拡大を取り込み、ピットサービスが好調

国内店舗売上高 **1,405億円** 前期比 **+4.2%**



※対象：国内オートバックスチェーン全業態。ただし、車買取・販売には、コンシューマ事業の売上を一部含む
※表示単位未満は切り捨て ※前期比は円単位で計算

2026年3月期上期 国内オートバックスチェーン 全業態売上高 増減額（前期差 全店ベース）

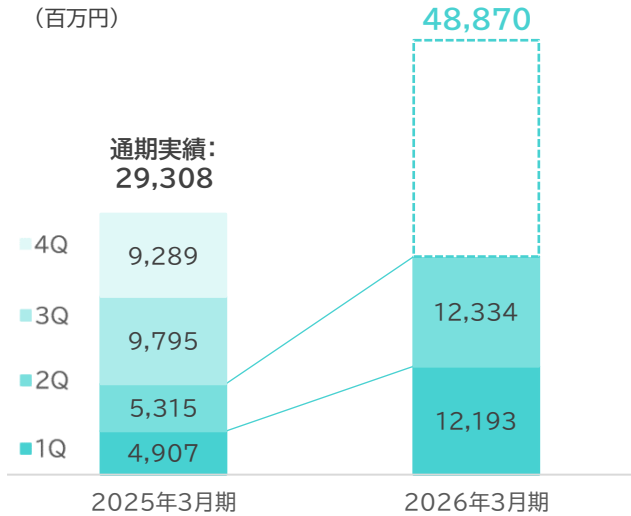


※対象:国内オートバックスチェーン全業態
※表示単位未満は切り捨て

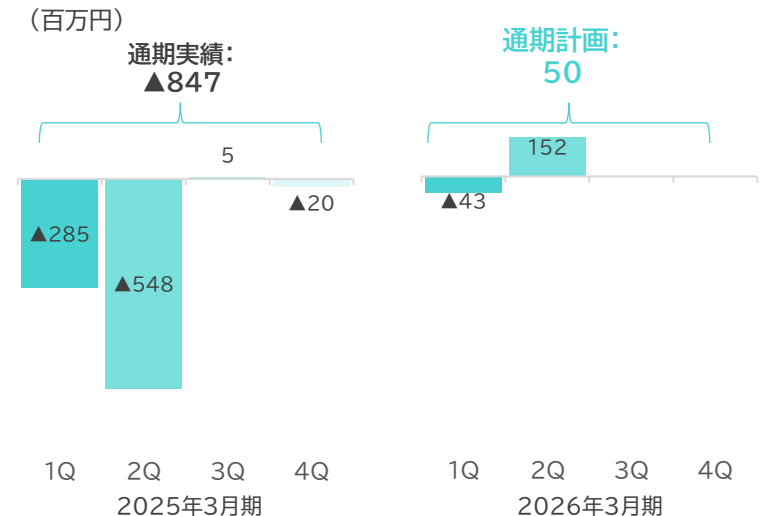
(百万円)	2025年3月期上期	2026年3月期上期	前年比
総売上高	10,223	24,528	+139.9%
ディーラー※	2,789	7,887	+182.8%
ビーライン	—	4,469	—
オートバックスカーズ	3,464	4,050	+16.9%
オトロン	—	3,020	—
オンラインストア	2,542	3,169	+24.6%
その他	1,367	1,815	+32.7%
セグメント間取引	59	116	+96.8%
営業利益	▲ 833	108	—

※ディーラー：Audi、Honda、BYD を展開。

■ 総売上高



■ 営業利益



増収・黒字転換
前期に子会社化したホンダディーラーやビーライン、オトロンが業績に寄与。
AudiとBYDの正規ディーラーやオンラインストア等の既存事業も伸長。

- ディーラー
 - ・前期にホンダのディーラーを子会社化
 - ・Audi小山の新規オープンやBYDの販売好調により売上が増加
- オートバックスカーズ
 - 直営店舗の出店およびFC加盟店新規オープンが寄与
- オンラインストア
 - 自社サイトの伸長と外部モールでの販促施策が奏功し、売上増加
- その他
 - ホームセンター等でカー用品販売・整備事業を展開するジェー・シー・エーを子会社化

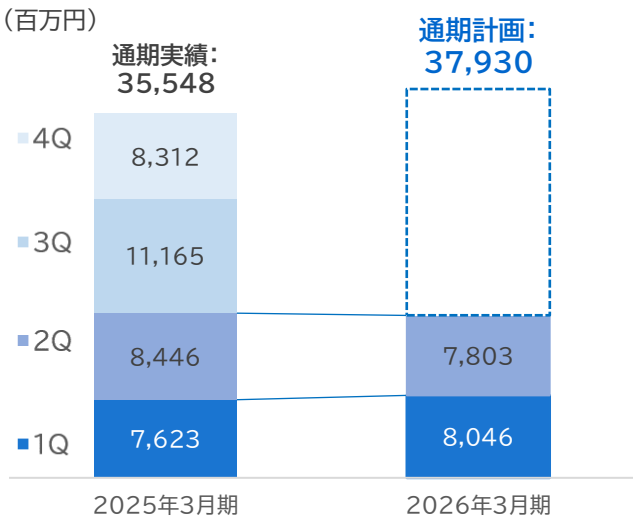


(百万円)	2025年3月期上期	2026年3月期上期	前年比
総売上高	16,070	15,849	▲1.4%
国内卸売	9,806	9,639	▲1.7%
海外卸売	1,513	1,398	▲7.6%
セグメント間取引	4,749	4,812	+1.3%
営業利益	▲ 106	237	—

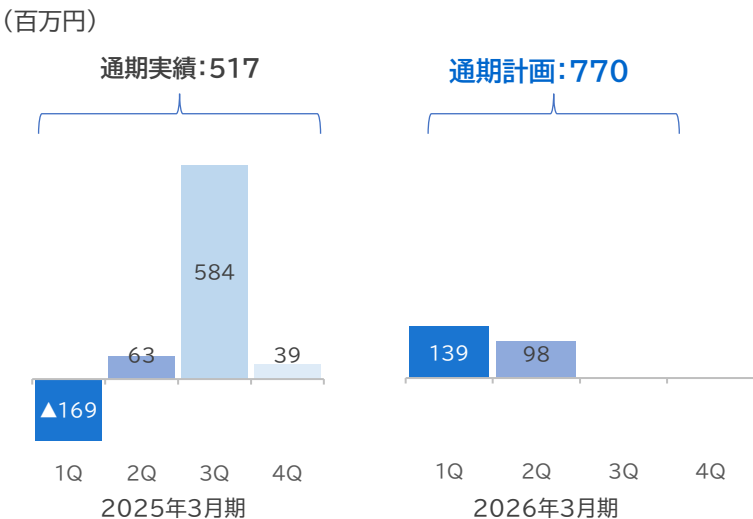
減収・黒字転換
海外卸売は、中国からのタイヤ卸が拡大も、日本からの卸売先の減少により輸出取引が縮小。
ホームセンター等へ卸売を行う子会社の吸収分割に伴う人員最適化により利益改善。

- 国内卸売
 - ・セブン-イレブン向けの卸売が拡大
 - ・アルミホイールの製造・販売等を行う子会社が堅調
- 海外卸売
 - ＜日本＞卸売先の減少により輸出取引が縮小
 - ＜オーストラリア＞新PB商品の販売が好調
 - ＜中国＞日本へのタイヤの輸出が拡大
 - ＜マレーシア＞オーソライズドディーラー認定店が増加

■ 総売上高



■ 営業利益



プライベートブランド「AQ.」



海外向けプライベートブランド



車両レーベル「GORDON MILLER MOTORS」

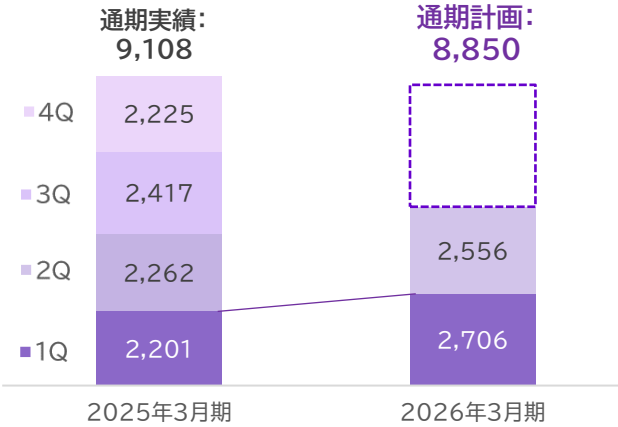


アルミホイール



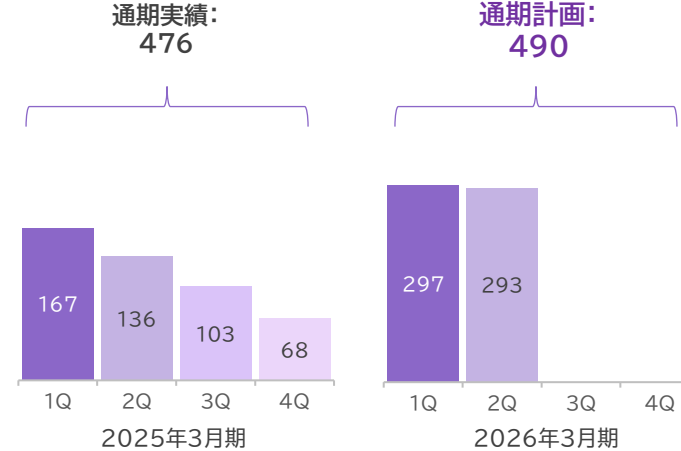
■ 総売上高

(百万円)



■ 営業利益

(百万円)



増収増益

新規出店等により不動産賃貸収入が堅調。

- ファイナンス
ローン金利引き上げ等により売上が増加
- 不動産
新規出店等により不動産賃貸収入が増加

■ トピックス

ビーモ ウェルフェア 「VEEMO Welfare」が兵庫県主催プロジェクトに採択

- ・「VEEMO Welfare」は障害者等用駐車スペースの不適切利用防止と利用者の利便性向上を目的としたサービス
- ・兵庫県有施設・県内民間施設にて実証実験を予定



レンタカー事業に参入

- ・車検時などの有償代車として提供していたレンタカーサービスを、一般向けレンタカーサービス「オートバックスレンタカー」として順次展開



プラス要因

- ✓ 車齢の長寿化にともなう車検・整備、メンテナンスの需要が増加
- ✓ 新規出店による拠点の拡大(+7店舗)

マイナス要因

- ✓ 原材料やエネルギーコストの高騰、物価高による消費の変化
- ✓ お客様の購買行動の変化による販売チャネル間の競争激化

国内店舗売上高 前期比

当初計画	上期	下期	通期
既存店	+3.8%	+4.6%	+4.2%
全店	+3.9%	+5.3%	+4.6%
実績・計画	上期実績	下期計画(修正)	通期計画
既存店	+2.9%	+3.6%	+3.2%
全店	+4.2%	+5.2%	+4.6%

※対象:国内オートバックスチェーン全業態の売上高

	上期		下期(通期計画—上期実績)		2026年3月期 通期	
	実績	前期比	予想	前期比	予想	前期比
(単位:億円)						
連結売上高	1,288	+16.8%	1,471	+5.7%	2,760	+10.6%
売上総利益	462	+19.8%	515	+3.5%	977	+10.6%
売上総利益率	35.9%		35.0%		35.4%	
販管費	411	+14.1%	431	+7.4%	842	+10.5%
営業利益	50	+102.5%	84	▲12.5%	135	+11.3%
営業利益率	3.9%		5.7%		4.9%	
経常利益	54	+102.6%	80	▲18.3%	135	+7.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	35	+113.6%	46	▲27.6%	82	+0.8%

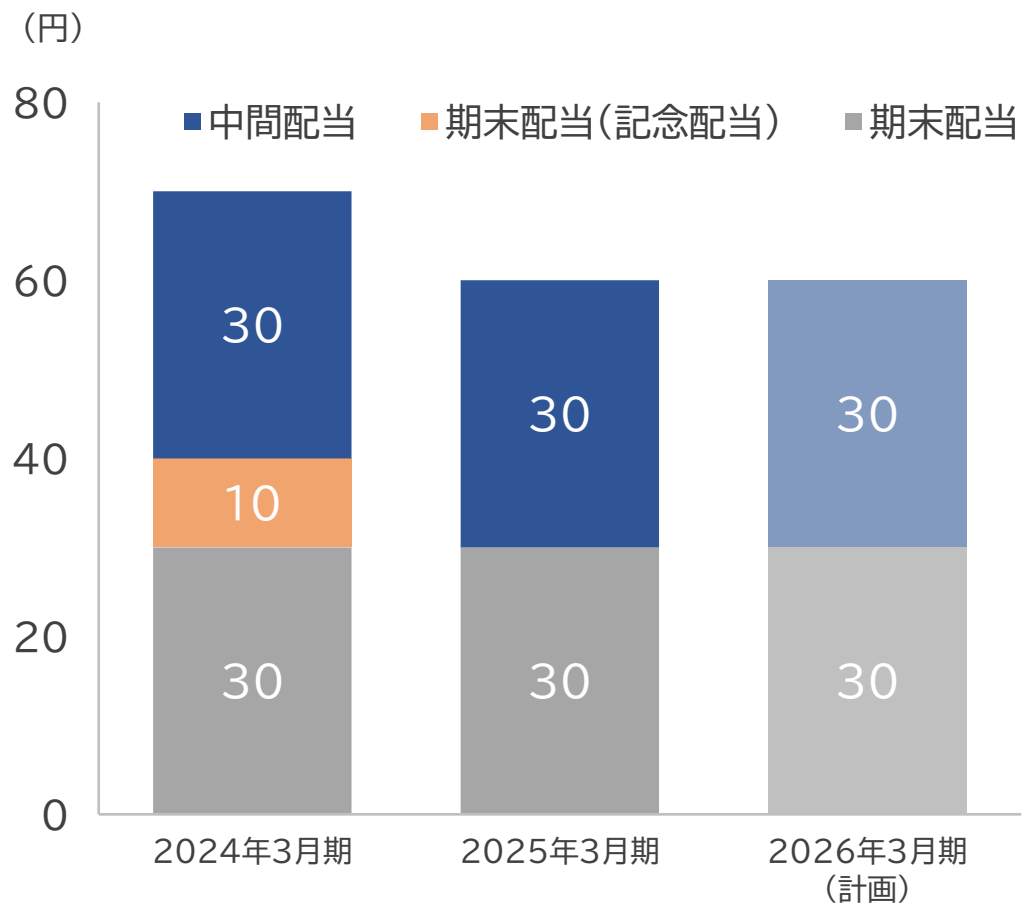
※表示単位未満は切り捨て
※対売上比・前期比は、円単位で計算

		上期		下期(通期計画—上期実績)		2026年3月期 通期	
(単位:百万円)		実績	前期比	予想	前期比	予想	前期比
オートバックス事業	総売上高	94,166	+5.5%	107,723	▲0.1%	201,890	+2.4%
	営業利益	9,019	+14.5%	13,230	▲6.6%	22,250	+0.9%
コンシューマ事業	総売上高	24,528	+139.9%	24,341	+27.5%	48,870	+66.7%
	営業利益	108	—	▲ 58	—	50	—
ホールセール事業	総売上高	15,849	▲1.4%	22,080	+13.4%	37,930	+6.7%
	営業利益	237	—	532	▲14.7%	770	+48.7%
拡張事業	総売上高	5,263	+17.9%	3,586	▲22.8%	8,850	▲2.8%
	営業利益	591	+94.0%	▲ 101	—	490	+2.9%
コーポレート	営業利益	▲ 4,873	—	▲ 5,186	—	▲10,060	—

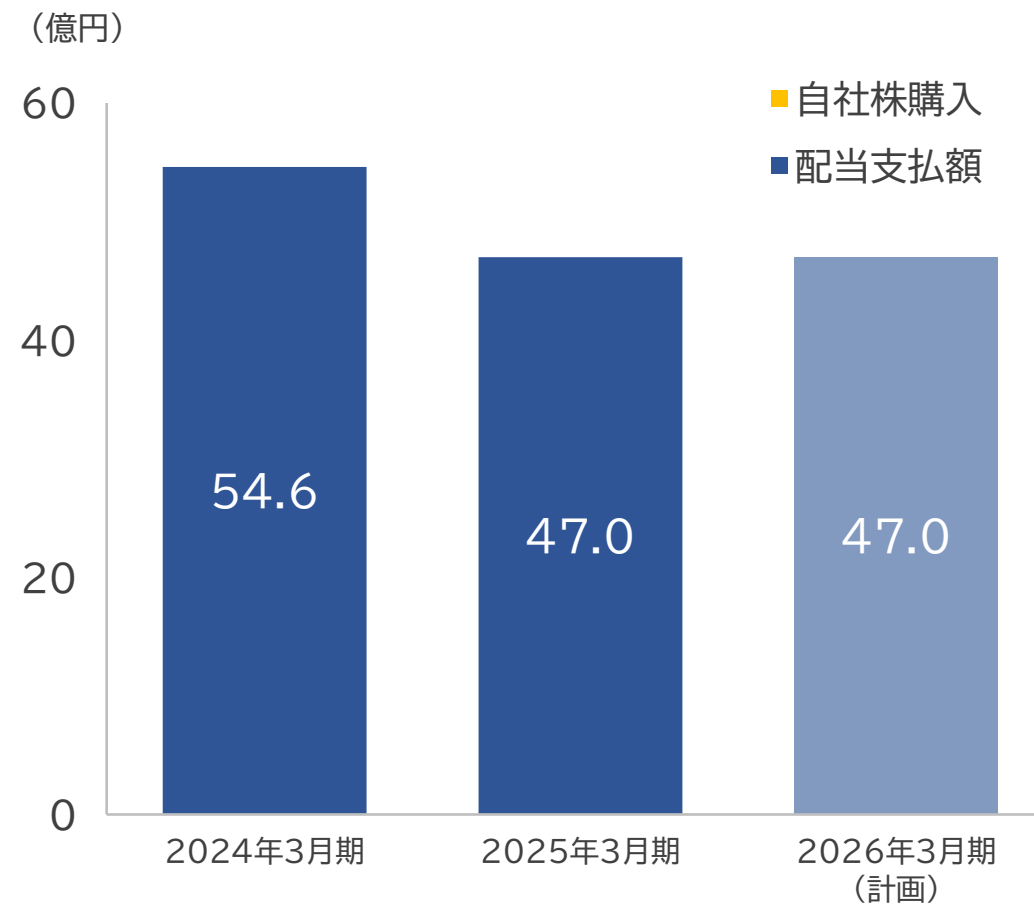
※表示単位未満は切り捨て
※対売上比・前期比は、円単位で計算

全体概況
セグメント別業績
業績計画
中計の取組
参考資料

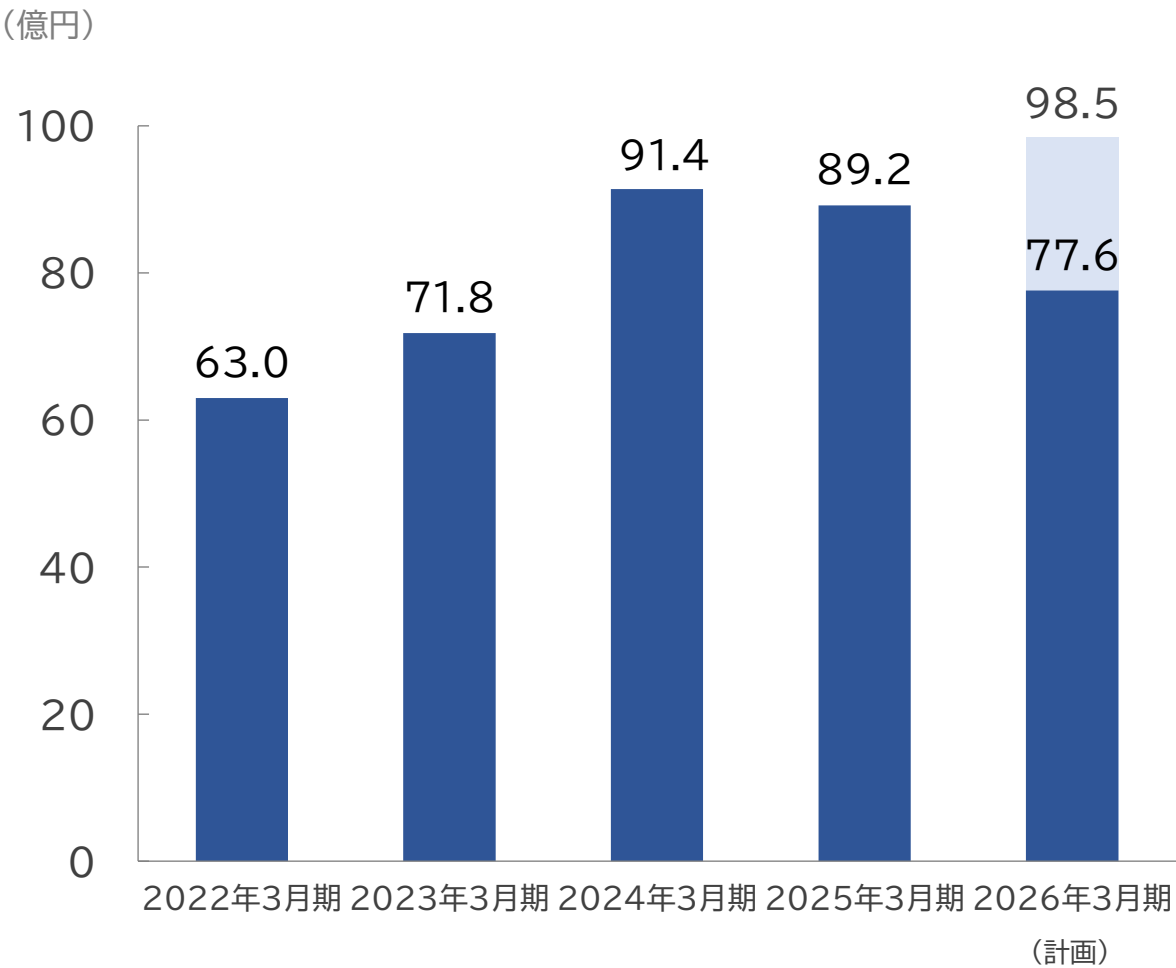
一株当たり配当金の推移



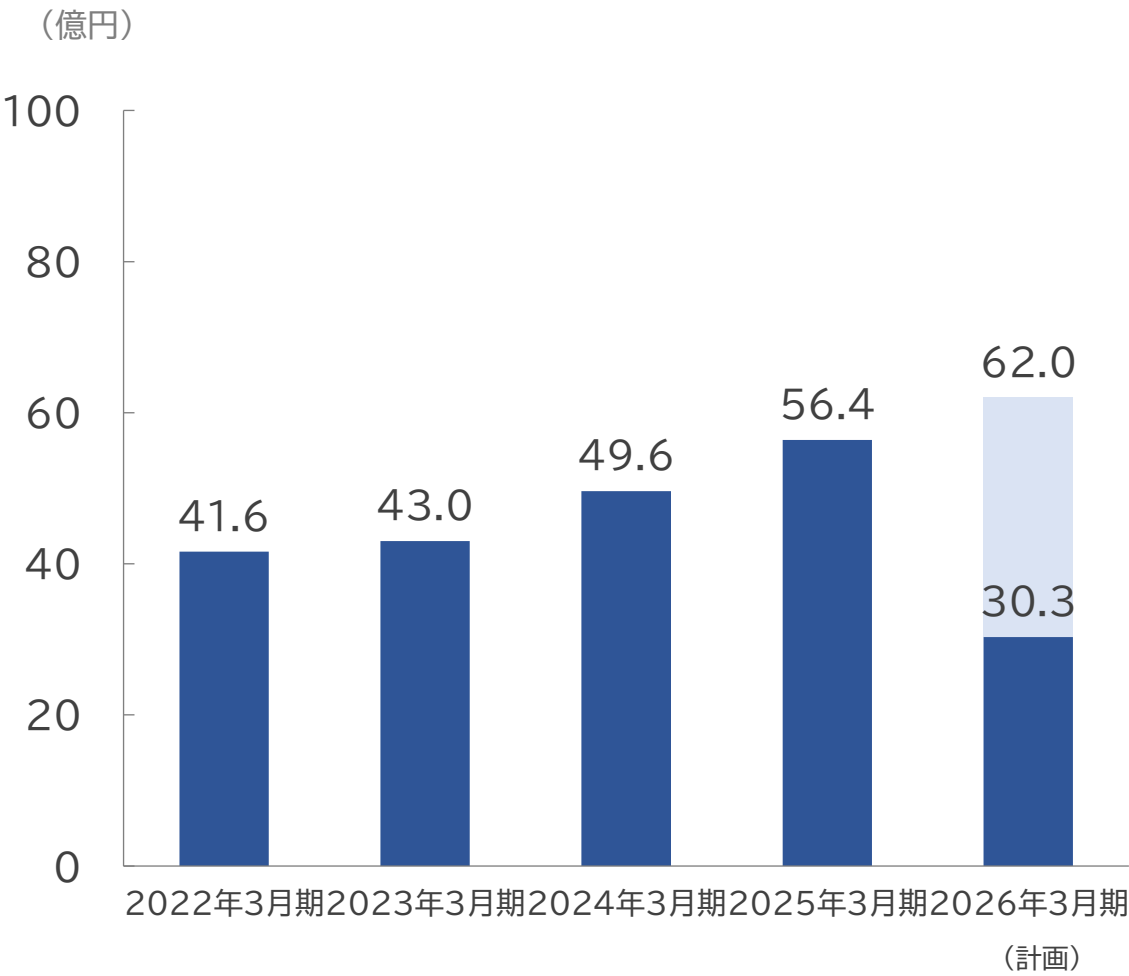
配当と自社株買い金額



設備投資



減価償却費



※表示単位未満切り捨て

中期経営計画の実現に向けた 取り組み状況について

代表取締役 社長
堀井 勇吾

1. 長期ビジョンと進化の方向性
2. 2024 中期経営計画の実現に向けた取り組み
3. 最後に

1. 長期ビジョンと進化の方向性

■長期ビジョン「Beyond AUTOBACS Vision 2032」



■フランチャイズパッケージの変更

変更の概要

- ・フランチャイズチェーン本部からフランチャイズチェーン加盟店舗への卸売価格を引き下げ
- ・小売に付随するロイヤリティ料率の引き上げ
- ・お客様の利便性を高めるDXや統一ツールを全店へ実装

変更後の実績

オートバックスフランチャイズチェーン加盟法人の**68%**が増収増益を実現

※2023年度実績(パッケージ変更前)と2024年度実績(パッケージ変更後)の比較

2. 2024 中期経営計画の実現に向けた取り組み

■2024 中期経営計画 Accelerating Towards Excellence の概要

2026年度 経営目標

連結売上高	連結営業利益	ROIC
2,800億円	150億円	7.0%
2023年度:2,298億円 2024年度:2,495億円	2023年度:80億円 2024年度:121億円	2023年度:4.1% 2024年度:5.6%

新たな方向性を実現するための戦略

- ① モビリティライフを支え続ける「タッチポイントの創出」
- ② モビリティライフに合わせた「商品・ソリューションの開発と供給」
- ③ モビリティライフの変化に対応した「新たな事業ドメインの設定」

■連結営業利益150億円の達成に向けて

1. タッチポイントの創出

- ・ 拠点と卸売先の拡大によるスケールメリットの増強

2. 商品・ソリューションの開発と供給

- ・ 組織と機能の統廃合によるコスト削減/価格競争力の強化

3. 新たな事業ドメインの設定

- ・ 事業シナジーを創出する資本業務提携の推進

2. 2024 中期経営計画の実現に向けた取り組み

① タッチポイントの創出

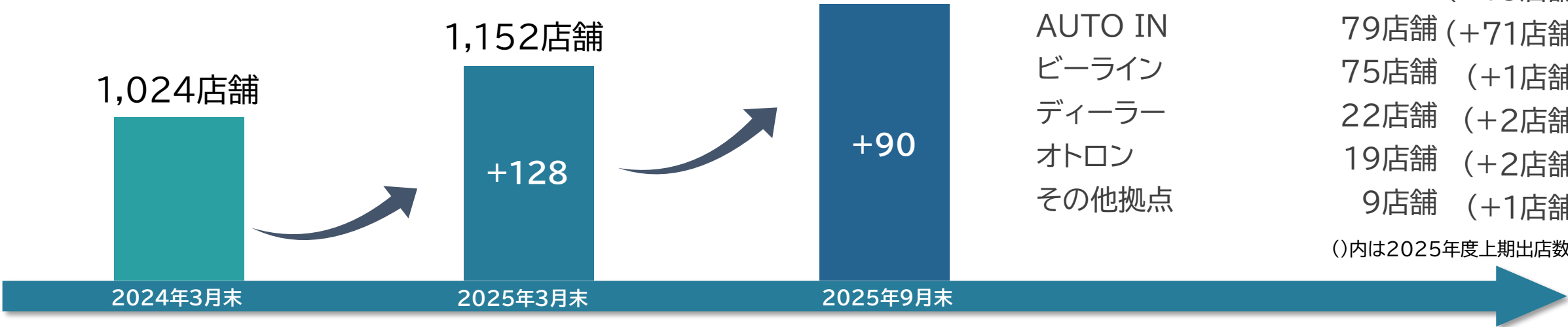


- 新規拠点の拡大
- グループ卸売の内製化
- 卸売外販の拡大

1,242店舗

オートバックス関連※	629店舗 (+3店舗)
※セコハン市場、Smart+1等を含む	
オートバックスカーズ	409店舗 (+15店舗)
AUTO IN	79店舗 (+71店舗)
ビーライン	75店舗 (+1店舗)
ディーラー	22店舗 (+2店舗)
オトロン	19店舗 (+2店舗)
その他拠点	9店舗 (+1店舗)

()内は2025年度上期出店数



2. 2024 中期経営計画の実現に向けた取り組み

② 商品・ソリューションの開発と供給

コスト削減および原価低減

- 商品調達・開発会社の吸収分割
- 外販およびグローバルでのPBブランド統一



外販用オイル(株CAP取扱いブランド)



PBエンジンオイルを「AUTOBACS Engine Oil」に刷新

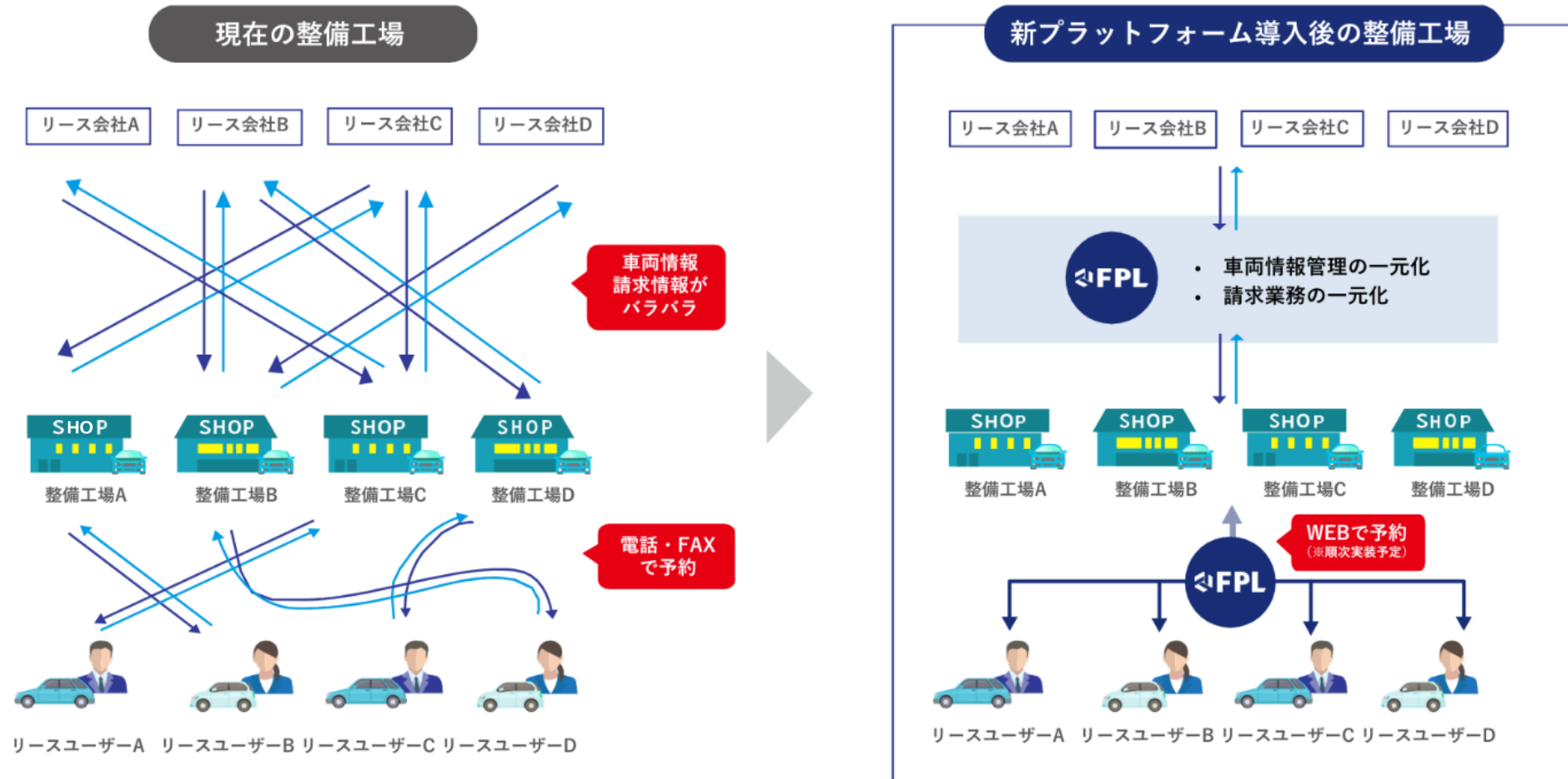
店舗品質の向上

- 店舗システムのIT・DX推進
- 人材教育・研修体制の強化



③ 新たな事業ドメインの設定

事業シナジーを創出する「FLEET PITLOCK」への出資
-リース車両メンテナンス受託拡大への契機-



「FLEET PITLOCKシステム」：法人向けリース車両の整備業務を効率化する一元管理プラットフォーム

AQ.(AUTOBACS QUALITY.)ブランド 売上の一部を、交通事故遺児支援へ寄付

- 子どもたちの生活基盤の安定と健全育成の支援を目的として公益財団へ寄付
- 交通事故で保護者を失うなどした子どもたちの希望と活力になることを願い、今後も継続的に実施予定



商品の一部

令和7年 8月九州 豪雨 災害への支援として 日本カーシェアリング協会に車両8台を寄贈

- 災害時の迅速対応を目的に、協会との協定やネットワーク参画を通じて体制強化
- 「クルマを活用した災害支援」として、2030年度まで継続的に車両寄贈を実施



■長期ビジョン国内KPI目標

	2032年度目標	2024年度実績
グループ店舗数	<u>1,300</u> 店舗	1,152 店舗
車検台数	<u>100</u> 万台	69 万台
車買取・販売台数	<u>15</u> 万台	4.3 万台

※本KPIの目標および実績の対象は、オートバックスセブングループ（単体+子会社）とオートバックスフランチャイズチェーン加盟法人です。

カー用品販売業から、身近なメンテナンス拠点「総合モビリティアフター業」へ

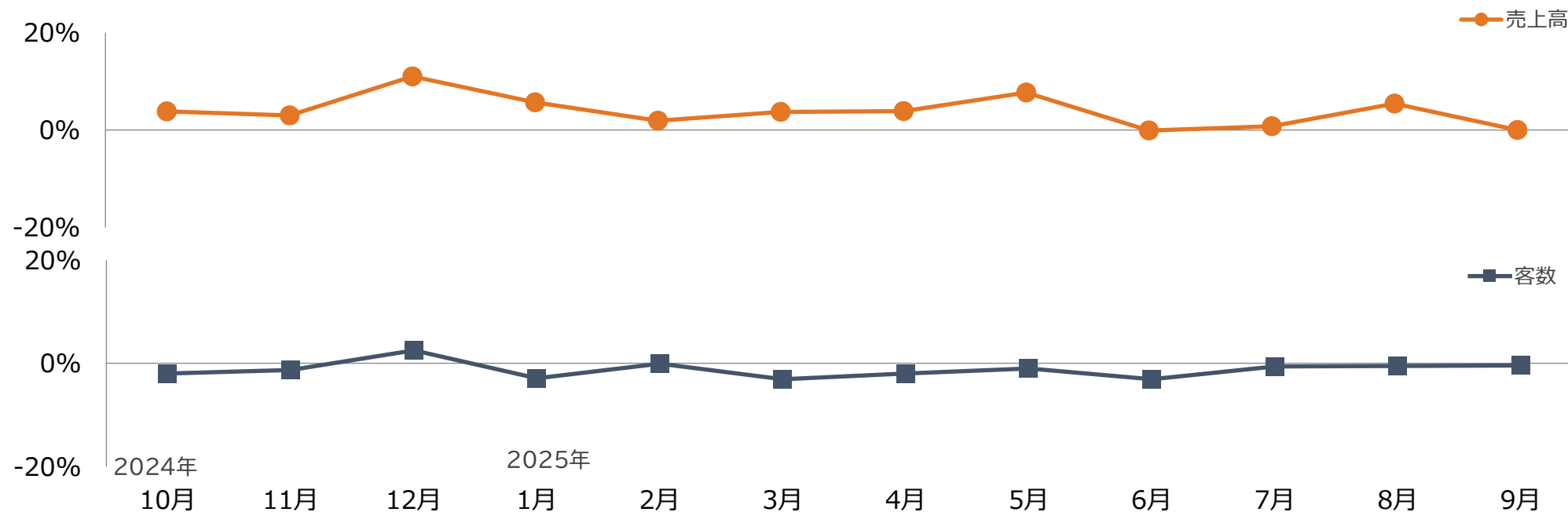
台数合計 **18,193台** 前期比 **+0.5%**

業販	
内訳	売上台数
本部へ売却	158台
本部へ売却を委託	3,264台
店舗から直接	9,578台
業販 合計	13,000台

小売	
内訳	売上台数
中古車	3,785台
新車	1,408台
小売 合計	5,193台

※オートバックス事業およびコンシューマ事業における車買取・販売

上期 既存店 売上前期比 +2.9% 客数前期比 ▲1.8%



事業環境

新車販売台数が減少

新車販売台数が増加

円安、インバウンド増

寒波・降雪

タイヤ値上げ

車検対象車両が増加

全体概況

セグメント別業績

業績計画

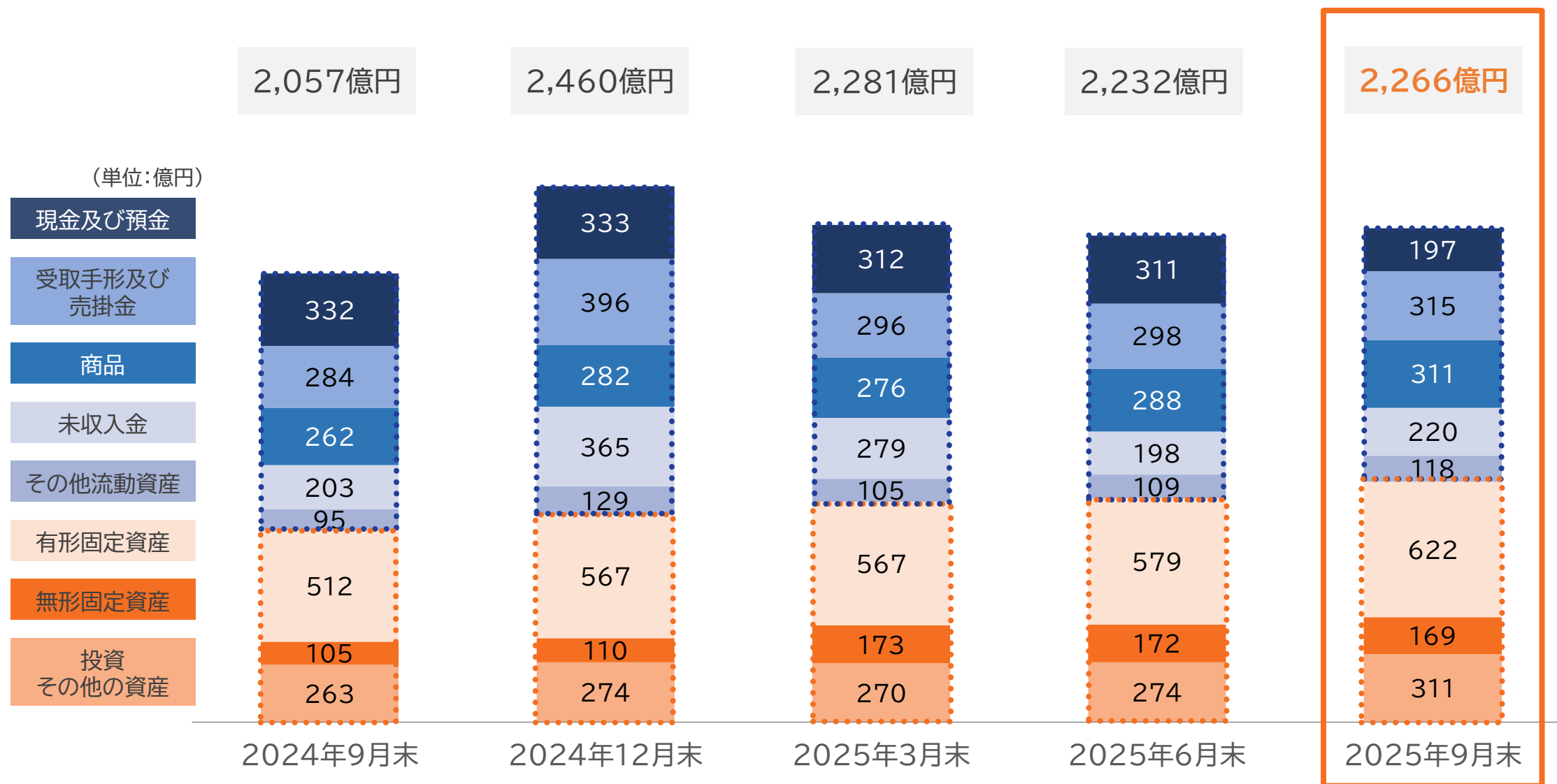
中計の取り組み

参考資料

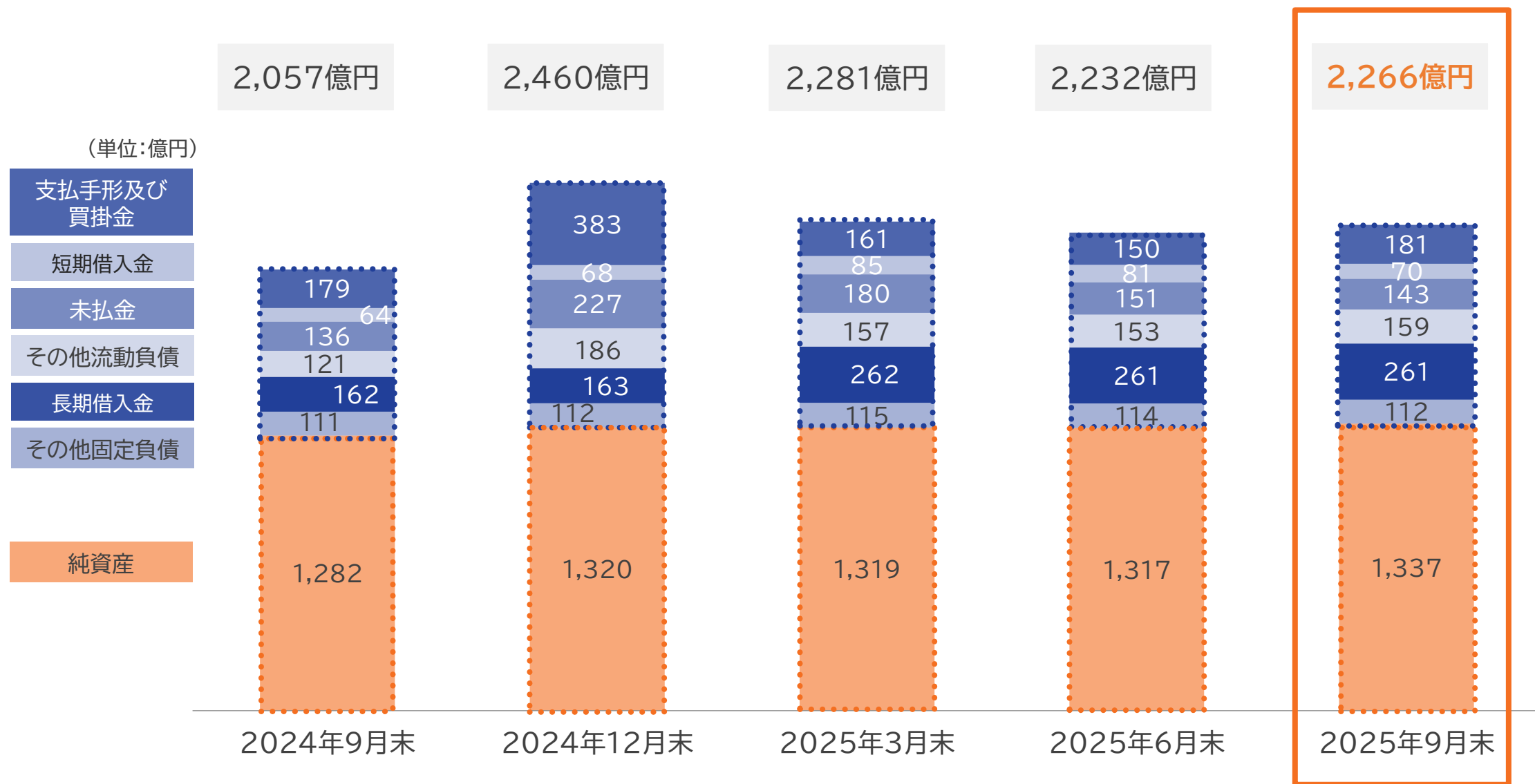
国内	25/3末	2026年3月期				26/3末	
		上期(実績)		25/9末	下期(計画)		
		新店	退店		新店		退店
オートバックス	509	+3		512	+7		519
オートバックスガレージ	1			1			1
スーパーオートバックス	71			71			71
A PIT AUTOBACS	2			2			2
オートバックスセコハン市場(※)	18	+1	-1	18	+3		21
Smart+1(※)	14			14	+2		16
オートバックスエクスプレス	11			11			11
オートバックスカーズ(※)	394	+15		409	+5		414
ディーラー	20	+2		22			22
ビーライン	79	+1	-5	75	+1		76
オトロン	17	+2		19	+2		21
AUTO IN	8	+71		79	+4	-1	82
その他拠点	8	+1		9			9
国内計	1,152	+96	-6	1,242	+24	-1	1,265

※インショップ、併設店を含みます

海外	25/3末	2026年3月期			26/3末
		上期 (実績)	25/9末	下期 (計画)	
台湾	6		6		6
シンガポール	2		2		2
タイ	122	+3	125	+5	130
フランス	8		8		8
マレーシア	4		4		4
フィリピン	6		6		6
海外計	148	+3	151	+5	156



※表示単位未満は切り捨て



※表示単位未満は切り捨て



見通しに関する注意事項

当社の将来についての計画、戦略及び業績に関する予想と見通しの記述が含まれています。これらの情報は現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づき算出しており、今後の事業内容等の変化により実際の業績等が予想と大きく異なる可能性があります。